



(様式第 10)

北里病発第 2020-63 号
2020 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 北里大学
理事長 小林 弘

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒108-8641 東京都港区白金五丁目 9 番 1 号
氏 名	学校法人 北里研究所

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

北里大学病院

3 所在の場所

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里一丁目 1 5 番 1 号	電話(042) 778 - 8111
--	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科	②消化器内科
③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科
⑦内分泌内科	⑧代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科
⑪リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 ④心臓外科 ⑤血管外科 ⑥心臓血管外科 ⑦内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 小児心臓血管外科 2 形成外科 3 美容外科 4 臨床検査科 5 病理診断科 6 リハビリテーション科 7 頭頸部外科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	1,033床	1,033床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	370人	184人	423.4人	看 護 補 助 者	126人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	2人	2人	2.4人	理 学 療 法 士	45人	臨床検査技師	139人
薬 剤 師	115人	5人	117.7人	作 業 療 法 士	21人	衛生検査技師	0人
保 健 師	22人	0人	22人	視 能 訓 練 士	16人	そ の 他	0人
助 産 師	59人	0人	59人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1,441人	17人	1451人	臨 床 工 学 士	48人	医療社会事業従事者	31人
准 看 護 師	1人	0人	1人	栄 養 士	1人	その他の技術員	14人
歯 科 衛 生 士	3人	0人	3人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	237人
管 理 栄 養 士	36人	0人	36人	診 療 放 射 線 技 師	86人	そ の 他 の 職 員	102人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	62人	眼科専門医	17人
外科専門医	45人	耳鼻咽喉科専門医	17人
精神科専門医	19人	放射線科専門医	13人
小児科専門医	21人	脳神経外科専門医	11人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	19人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	23人
産婦人科専門医	19人	救急科専門医	12人
		合 計	294人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (岩村 正嗣) 任命年月日 平成30年7月1日

平成27年7月から平成30年6月まで、副院長（診療担当）・診療部長に就任していた。
 また、リスクマネジメント委員会の構成員としての業務に従事している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	856人	0人	856人
1日当たり平均外来患者数	2216.3人	28.3人	2244.6人
1日当たり平均調剤数			2,155剤
必要医師数			218人
必要歯科医師数			1人
必要薬剤師数			29人
必要(准)看護師数			510人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,125 m ²		病床数	70床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	212.2 m ²	病床数	20床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	67.30 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	228.87m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	159.02m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) オートクレーブ、全自動同定感受性装置、安全キャビネット、孵卵器			
病理検査室	521.58m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ラミナーテーブル、切り出し台、撮影装置、顕微鏡、遠心器、遺伝子解析装置、PCR、VIP、自動染色装置、自動封入装置、包埋センター			
病理解剖室	316.90m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台、切り出し台、ラミナーテーブル、撮影装置			
研究室	4,946.80m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細胞解析装置、マイクローム、電子顕微鏡超低温フリーザ、高速冷却遠心機			
講義室	3349.92m ²	鉄筋コンクリート	室数	28室	収容定員	2,546人
図書室	3,052.23m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	蔵書数	194,800冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	90.5%	逆紹介率	67.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数		24,936人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		20,337人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,343人
	D: 初診の患者の数		30,137人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
平原 史樹	横浜市病院経営 本部長	○	大学病院等の医療 機関における医療 安全業務の経験	有・ 無	医療に係る安全管 理に関する識見を 有する者
海野 宏行	みなと綜合法律 事務所		弁護士としての経 験。	有・ 無	法律に関する識見 を有する者
山口 育子	認定NPO法人ささ えあい医療人権 センターCOML		医療現場により良 いコミュニケーション を築く豊富な 活動経験	有・ 無	医療を受ける者
和田 仁孝	早稲田大学大学 院 法務研究科		医療メディエータ ーとしての豊富な 経験	有・ 無	学識経験を有する 者
花井 恵子	神奈川県看護協 会		大学病院における 医療安全業務の経 験	有 ・無	医療に係る安全管 理に関する識見を 有する者
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 法人ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	EXIT(ex-utero intrapartum treatment)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 帝王切開時に、胎児の半身と手を子宮外に露出された状態で、臍帯を切らない状態で胎盤の循環を守った状態で挿管を試みたり、ルート確保を試みる手技である。挿管やルート確保が出来た段階で臍帯をクランプして体外に出す方法で、胎児治療の一環として実施する。			
医療技術名	ロボット支援下僧帽弁形成術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 胸腔鏡下で行っている僧帽弁形成をロボット支援下で実施する術式。 2018年診療報酬改定により保険収載されている。			
医療技術名	中咽頭・下咽頭・声門上型咽頭癌に対する経口的ロボット支援手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 中咽頭・下咽頭・声門上型咽頭癌における経口的ロボット支援手術。 2009年頃から欧米、韓国を中心に世界で広く実施されている。 日本では、2018年9月に医薬品医療機器等(薬機法)で承認され、2019年1月に頭頸部外科学会により指針が示されている。			
医療技術名	食道肺癰に対する塞栓術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 食道閉鎖症の吻合部の狭窄に対する拡張術後から上部食道から右肺上葉への食道肺癰の所見を認めた患者に対し、上部食道のドレナージによる治療を継続したが、難治となった。また、瘻孔は気管支鏡および上部消化管内視鏡検査で確認することが出来なかったことから、内視鏡検査と血管内治療で行われる造影下の塞栓術を併施し食道肺癰の閉鎖を施行した。			
医療技術名	肺動脈狭窄に対するステント治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 Norwood術後の新大動脈(主肺動脈と上行大動脈)による圧排により左肺動脈狭窄をきたし低酸素血症となりECMOでの管理を余儀なくされている場合、ECMOからの離脱には左肺動脈の拡張が必須であり、高圧系血管による圧排に対してステント留置する方針とし、肺動脈形成追加およびステント留置術を施行した。			
医療技術名	自己末梢血管細胞採取	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 造血器悪性腫瘍は新規薬剤が導入された現在においても治癒困難な疾患が存在する。そのような疾患においては65歳未満の場合、自家造血幹細胞移植併用大量化学療法でPFSやOSの延長が示されており、ガイドライン上も明確に推奨されている。 自家造血幹細胞移植を行うには、造血幹細胞を保存する必要があることから、事前に自己末梢血幹細胞採取を施行する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	8	56	ベーチェット病	132
2	筋萎縮性側索硬化症	44	57	特発性拡張型心筋症	110
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	15
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	2
5	進行性核上性麻痺	22	60	再生不良性貧血	48
6	パーキンソン病	310	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	13	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	85
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	220	66	IgA 腎症	37
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	37
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	163	68	黄色靱帯骨化症	15
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	25	69	後縦靱帯骨化症	83
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	7
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	87
17	多系統萎縮症	33	72	下垂体性ADH分泌異常症	23
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾゾーム病	8	74	下垂体性PRL分泌亢進症	4
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	6
21	ミトコンドリア病	16	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	30	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	34
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	139
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	3
28	全身性アミロイドーシス	13	83	アジソン病	3
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	84
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	50
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	27
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	30
34	神経線維腫症	17	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	28	90	網膜色素変性症	26
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	92	特発性門脈圧亢進症	5
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	63
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	8
40	高安動脈炎	47	95	自己免疫性肝炎	23
41	巨細胞性動脈炎	8	96	クローン病	309
42	結節性多発動脈炎	18	97	潰瘍性大腸炎	567
43	顕微鏡的多発血管炎	68	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	27	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	29	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	22	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	9	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	605	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	208	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	194	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	80	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	46	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	18	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	1	161 家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	35
113 筋ジストロフィー	11	163 特発性後天性全身性無汗症	0
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164 眼皮皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165 肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	0
117 脊髄空洞症	1	167 マルファン症候群	5
118 脊髄髄膜瘤	0	168 エーラス・ダンロス症候群	0
119 アイザックス症候群	0	169 メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	1
122 脳表ヘモジデリン沈着症	3	172 低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ペリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	0	177 有馬症候群	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184 アントレー・ピクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	0	186 ロスマンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	1
142 ミオクロニー欠神てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 ブラダー・ウィリ症候群	0
144 レノックス・ガストー症候群	0	194 ソトス症候群	0
145 ウェスト症候群	0	195 ヌーナン症候群	0
146 大田原症候群	1	196 ヤング・シンプソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203 22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	1	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	3	208 修正大血管転位症	1
159 色素性乾皮症	0	209 完全大血管転位症	2
160 先天性魚鱗癬	0	210 単心室症	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	1
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	12	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	2	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	49	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	12
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	6	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	2	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	3
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性腭炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	20
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	3
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	3
316	カルニチン回路異常症	1	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療環境体制加算1	・後発医薬品使用体制加算2
・特定機能病院入院基本料一般病棟 7対1入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算1・2
・特定機能病院入院基本料精神病棟 13対1入院基本料	・データ提出加算2のイ
・救急医療管理加算	・入退院支援加算1・3
・超急性期脳卒中加算	・地域連携診療計画加算
・診療録管理体制加算1	・入院時支援加算
・医師事務作業補助体制加算1(25対1)	・認知症ケア加算
・急性期看護補助体制加算(25対1)	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間配置加算(12対1加算1)	・排尿自立支援加算
・看護補助加算	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・救命救急入院料1・4
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料1
・無菌治療室管理加算1・2	・早期離床・リハビリテーション加算
・緩和ケア診療加算	・早期栄養介入管理加算
・精神科応急入院施設管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1・2
・精神科リエゾンチーム加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・小児特定集中治療室管理料
・医療安全対策加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児)(新生児)
・感染防止対策加算1	・小児入院管理料1
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・持続血糖測定器加算
・腎代替療法実績加算	・遺伝学的検査
・糖尿病合併症管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・がん患者指導管理料 イ・ロ・ハ・ニ	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来緩和ケア管理料	・先天性代謝異常症検査
・移植後患者指導管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・糖尿病透析予防指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・小児運動器疾患指導管理料	・検体検査管理加算(I)・(IV)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・国際標準検査管理加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・遺伝カウンセリング加算
・腎代替療法指導管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・外来放射線照射診療料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・療養・就労両立支援指導料(相談支援加算)	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ハイリスク妊産婦共同管理料(II)	・胎児心エコー法
・がん治療連携計画策定料	・ヘッドアップティルト試験
・外来排尿自立指導料	・皮下連続式グルコース測定
・肝炎インターフェロン治療計画料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・薬剤管理指導料	・脳波検査判断料1
・医療機器安全管理料1・2	・神経学的検査
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料)	・補聴器適合検査
・歯科治療時医療管理料	・ロービジョン検査判断料
・遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)	・小児食物アレルギー負荷検査
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・センチネルリンパ節生検(片側)

施設基準の種類	施設基準の種類
・経気管支凍結生検法	・医療保護入院等診療料
・画像診断管理加算1・3	・硬膜外自家血注入
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・人工腎臓・慢性維持透析を行った場合1
・冠動脈CT撮影加算	・導入期加算2
・外傷全身CT加算	・透析液水質確保加算
・心臓MRI撮影加算	・磁気による膀胱等刺激法
・乳房MRI撮影加算	・CAD/CAM冠
・小児鎮静下MRI撮影加算	・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・頭部MRI撮影加算	・皮膚移植術(死体)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)
・外来化学療法加算1	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
・無菌製剤処理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。))
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・椎間板内酵素注入療法
・運動器リハビリテーション料(I)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・難病患者リハビリテーション料	・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に限る))
・がん患者リハビリテーション料	・角膜移植術(内皮移植加算)
・リンパ浮腫複合的治療料	・羊膜移植術
・集団コミュニケーション療法料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・歯科口腔リハビリテーション料2	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・児童思春期精神科専門管理加算	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・精神科作業療法	・網膜再建術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・人工内耳植込術

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療以外の診療に係るものに限る)	・補助人工心臓
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・小児補助人工心臓
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術及び胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術及び腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカーの場合)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・同種死体腎移植術
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・生体腎移植術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・膀胱水圧拡張術

・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
---	---------------

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・病理診断管理加算2
・人工尿道括約筋植込・置換術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・
・胎児輸血術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則19(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対する乳房切除術に限る。)	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則19(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。)	・
・輸血管管理料 I	・
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)及び同種クリオプレシピテート作製術	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・レーザー機器加算の施設基準	・
・麻酔管理料(I)・(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
周産期医療の質の向上に寄与するための、妊産婦及び新生児の管理と診療連携体制	海野信也	産科	15,502,000	補 委	厚生労働省
災害時小児・周産期医療体制の構築と認知向上についての研究	海野信也	産科	2,743,000	補 委	厚生労働省
「小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の確立」(H29-難治等(難)-一般-039)	石倉 健司	小児科	24,050,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)
「腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築班」	柏原 直樹	川崎医科大学	500,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
「低出生体重児における慢性腎臓病発症のリスクファクターの検討—全国疫学調査—」	上村 治	一宮医療センター	130,000	補 委	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(一般)
「小児難治性頻回再発型・ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験」分担研究開発課題名「プロトコル改訂」	飯島 一誠	神戸大学	1,040,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	原 純一	大阪市立総合医療センター	120,000	補 委	日本医療研究開発機構
希少・難治小児脳幹部神経腫瘍に対する塩酸ニムスチン局所投薬による新規治療	富永 悌二	東北大学	600,000	補 委	日本医療研究開発機構
中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するテモゾロミドを用いた標準治療確立に関する研究	西川 亮	埼玉医科大学国際医療センター	500,000	補 委	日本医療研究開発機構
可及的手術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	隈部 俊宏	脳神経外科	15,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
糖尿病合併冠動脈疾患レジストリを基盤としたコルヒチン第3相検証的試験の実施とRCTonRegistryに向けたレジストリデータの品質管理と標準化に関する研究	阿古潤哉(分担)	循環器内科	769,231	補 委	日本医療研究開発機構

乳がん治療における心臓合併症の画像診断を用いた新たなリスク因子探索と心機能評価法標準化に関する研究-Cardio-oncologyの実践	阿古潤哉(分担)	循環器内科	153,847	補 委	日本医療研究開発機構
プロスタグランジンを介した肝樹状細胞の肝修復における役割解明	西澤 伸恭	一般・小児・肝胆 膵外科	1,950,000	補 委	文部省科学研究費
安全で繊細な小児高難度内視鏡手術のための鉗子先端圧検出システムの開発と妥当性評価	出家 亨一	一般・小児・肝胆 膵外科	1,430,000	補 委	文部省科学研究費
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療と最適化標準治療に関する研究	小泉 和二郎	消化器内科	1,170,000	補 委	AMED
難治性食道がんの治療方針決定に資する技術開発に関する研究	小泉 和二郎	消化器内科	195,000	補 委	AMED
「ALDH2/ADH1B遺伝子型とヨード不染帯に基づく食道癌のリスクと予防の確立」	堅田 親利	消化器内科	1,100,000	補 委	文部省科学研究費
放射線治療における3次元スキャナーを使用した位置補正機能と患者情報取得機能の開発	早田 格	放射線治療科	260,000	補 委	学術研究助成基金助成金
安全な子宮頸癌治療に向けた小線源治療専用の品質管理ツールの開発	野澤 茉莉花	放射線治療科	1,300,000	補 委	学術研究助成基金助成金
関節リウマチ病態に関与する新規分子MS4A4Aの機能解明と臨床応用の検討	山岡 邦宏	膠原病・感染内科	2,319,322	補 委	文部科学省
関節リウマチの活動性と相関する新規分子MS4A4Aを標的とした創薬	山岡 邦宏	膠原病・感染内科	1,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
全身性エリテマトーデスにおける自己抗体による直接的血液脳関門破壊機序の解明	有沼 良幸	膠原病・感染内科	1,100,000	補 委	文部科学省
ベーチェット病のゲムワイド亜型解析によるエビデンス創出とレジストリー構築	東野 俊洋	膠原病・感染内科	50,000	補 委	文部科学省
自己免疫疾患に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	400,000	補 委	厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	400,000	補 委	厚生労働省

ベーチェット病のゲムワイド亜型解析によるエビデンス創出とレジストリー構築	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	50,000	補委	文部科学省
新規肺腺がん細胞株を用いた肺がん浸潤・転移機構の解析と治療薬開発への応用	佐藤 之俊	呼吸器外科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胸膜中皮腫に対する胸腔内局所療法の開発と新規バイオマーカーの探索	塩見 和	呼吸器外科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
プレオマイシン誘導性肺線維症モデルにおける骨髄由来VEGFR1陽性細胞の役割	松井 啓夫	呼吸器外科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌に対するREV7発現と新規治療標的としての意義	山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	700,000	補委	文部科学省
HPV関連頭頸部癌とREV7発現の検討	靱山 香保	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	800,000	補委	文部科学省
咽喉頭気管粘膜疾患と細胞外シグナル調節キナーゼ(ERK)のメカニズムの解明	木村 朱里	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,100,000	補委	文部科学省
内耳障害における蝸牛神経の髄鞘制御メカニズムの解明	栗岡 隆臣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,100,000	補委	文部科学省
エピジェネティックマーカーを用いた新しい胃癌洗浄細胞診の開発	山下 継史	上部消化管外科	1,300,000	補委	日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)
糖脂質を利用したネフリン・リン酸化制御機構の解明と慢性腎臓病治療薬	川島永子	腎臓内科	1,000,000	補委	公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
糖脂質GM3のネフリン・リン酸化制御機構を利用した巣状糸球体硬化症の治療法の確立	川島永子	腎臓内科	4,680,000	補委	(独)日本学術振興会(科学研究費助成事業)
正常ポドサイトにおける細胞膜分子・糖脂質GM3の重要性	内藤正吉	腎臓内科	4,420,000	補委	(独)日本学術振興会(科学研究費助成事業)
腎間質線維化進行機序における炎症後細胞死異常と線維化促進性食細胞の関連性	竹内康雄	腎臓内科	4,290,000	補委	(独)日本学術振興会(科学研究費助成事業)
糖脂質GM3による蛋白尿治療薬の創出へ向けた標的検証	川島永子	腎臓内科	4,290,000	補委	(独)日本学術振興会(科学研究費助成事業)

腎糸球体スリット膜障害における蛋白尿発症機序の解明	川島永子	腎臓内科	100,000	補 委	物質・デバイス領域共同研究拠点(基盤共同研究)
高齢者脊椎固定術において確実な骨癒合を実現する機能性間葉系幹細胞シートの創生	井上 玄	整形外科	1,000,000	補 委	文部科学省
成長因子固相化軟骨細胞シート・同種骨複合体による広範囲骨軟骨欠損修復法の確立	小沼 賢治	整形外科	900,000	補 委	文部科学省
Tm mapping法を用いた骨関節軟部組織感染症の原因菌種迅速同定法の確立	内山 勝文	整形外科	1,200,000	補 委	文部科学省
注入型局所硬化ゲルを用いた幹細胞・成長因子送達による新規難治性骨折治療法の開発	内田 健太郎	整形外科	1,200,000	補 委	文部科学省
神経ペプチドを介した血管内皮増殖因子による炎症非依存性疼痛惹起メカニズムの解明	高相 晶士	整形外科	1,200,000	補 委	文部科学省
膝蓋下脂肪体由来神経ペプチドを介した新規変形性膝関節症疼痛惹起機構の解明	相川 淳	整形外科	1,200,000	補 委	文部科学省
CGRPシグナルを介した慢性椎間板性腰痛メカニズムの解明	宮城 正行	整形外科	700,000	補 委	文部科学省
経皮的脊椎圧迫骨折治療促進シーズの実用化研究	齋藤 亘	整形外科	900,000	補 委	文部科学省
腱板断裂後継続する疼痛のメカニズムの解明および疼痛抑制因子の検討	見目 智紀	整形外科	1,000,000	補 委	文部科学省
前・初期変形性股関節症患者の疼痛発現メカニズムおよびその制御機構の解明	福島 健介	整形外科	1,200,000	補 委	文部科学省

計50件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Mochizuki J,Kanai Y,Onishi Y,et al.	産科	Prenatal skeletal sonographic findings of Jeune syndrome	Jpn J Med Ultrasonics. 2019;46(6):551-554.	Case report
2	Sekiguchi K,Ito Y,Hattori K,et al.	産科	VEGF Receptor 1-Expressing Macrophages Recruited from Bone Marrow Enhances Angiogenesis in Endometrial Tissues	Sci Rep. 2019;7(9):7037-	Original Article
3	Miyaji K, Miyazaki S, Itatani K,他	心臓血管外科	Novel surgical strategy for complicated pulmonary stenosis using haemodynamic analysis based on a virtual operation with numerical flow analysis.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2019/5; 28(5)775-782	Original Article
4	Kemmochi M, Senzaki H, Miyaji K,他	小児科	Optimal timing of video-assisted thoracoscopic surgery for patent ductus arteriosus in preterm infants born at ≤ 28 weeks of gestation.	Pediatr Int.2019/8; 61(8)792-796	Original Article
5	Yamashita M, Kamiya K, Matsunaga A他	医療系研究科	Prognostic value of sarcopenic obesity estimated by computed tomography in patients with cardiovascular disease and undergoing surgery.	J Cardiol.2019/9; 74(3)273-278	Original Article
6	Horikoshi R, Kitamura T, Miyaji K	心臓血管外科	The modified Ross Reversal operation: a new approach for preserving the autograft wall.	Interact Cardiovasc Thorac Surg.2020/2; 30(2)324-326	Case report
7	Shibahara I, Saito R, Osada Y,et al	脳神経外科	Incidence of initial spinal metastasis in glioblastoma patients and the importance of spinal screening using MRI	J Neurooncol. 2019 Jan 141(2):337-345	Original Article
8	Hide T, Shibahara I, Kumabe T	脳神経外科	Novel concept of the border niche: glioblastoma cells use oligodendrocytes progenitor cells (GAOs) and microglia to acquire stem cell-like features	Brain Tumor Pathol. 2019 Apr 36(2): 63-73	Original Article
9	Shibahara I, Hanihara M, Miyasaka K, et al	脳神経外科	Temporal glioblastoma mimicking basal ganglia invasion: distinguishing removable and unremovable tumors	World Neurosurg. 2019 Oct 130: e213-e221	Original Article
10	Yamamoto D, Koizumi H, Ishima D,et al	脳神経外科	Angiographic Characterization of the External Carotid Artery: Special Attention to Variations in Branching Patterns	Tohoku J. Exp. Med. 2019 Nov 249: 185-192	Original Article
11	T. Shimizu, R. Tsutsumi, K. Shimizu, et al	脳神経内科	Differential effects of thyrotropin releasing hormone (TRH) on motor execution and motor adaptation process in patients with spinocerebellar eneration.	J Neurol Sci. 2020 in press	Original Article
12	A. Yanagida, N. Kanazawa, J. Kaneko, et al	脳神経内科	Clinically-based score predicting cryptogenic NORSE at early stage of status epilepticus.	Neurology: Neuroimmunology & Neuroinflammation . 2020 in press	Original Article

13	Koya Obara, Yasuyuki Amoh他	皮膚科	Hair-follicle-associated pluripotent stem cells derived from cryopreserved intact human hair follicle sustain multilineage differentiation potential	Scientific Reports 9, 9326, 2019	Original Article
14	Kyoumi Shirai, Yasuyuki Amoh他	皮膚科	Expression of anti-aging type XVII collagen (COL17A1/BP180) in hair follicle-associated pluripotent (HAP) stem cells during differentiation.	Tissue and Cell. 2019, Volume 59, 2019, pp. 33-38	Original Article
15	Yusuke Inoue, Hiroyasu Itoh	放射線診断科	Effects of scout radiographic imaging conditions on tube current modulation in chest computed tomography	J Radiol Prot . 2020 Mar;40(1):253-269.	Original Article
16	Yusuke Inoue, Hiroyasu Itoh, Kazunori Nagahara, et al.	放射線診断科	Estimation of radiation dose in CT venography of the lower extremities: phantom experiments using different automatic exposure control settings and scan ranges	Radiat Prot Dosimetry. 2020 Jun 12;188(1):109-116.	Original Article
17	Yusuke Inoue, Kazunori Nagahara, Hiroko Kudo, et al.	放射線診断科	Effects of the scan range on radiation dose in the computed tomography component of oncology positron emission tomography/computed tomography	Radiat Prot Dosimetry . 2019 Nov 30;185(1):1-6.	Original Article
18	Hamazaki N, Kamiya K, Ako J, et al.	循環器内科	Prevalence and Prognosis of Respiratory Muscle Weakness in Heart Failure Patients With Preserved Ejection Fraction	Respir Med. 2020 Jan; 161: 105834	Original Article
19	Nakamura T, Kamiya K, Ako J, et al.	循環器内科	Impact of Gait Speed on the Obesity Paradox in Older Patients With Cardiovascular Disease	Am J Med. 2019 Dec; 132(12): 1458-1465.	Original Article
20	Yamamoto E, Yonetsu T, Ako J, et al.	循環器内科	Clinical and Laboratory Predictors for Plaque Erosion in Patients With Acute Coronary Syndromes	J Am Heart Assoc. 2019 Nov; 8(21):012322.	Original Article
21	Aoki J, Nakazawa G, Ako J, et al.	循環器内科	Effect of combination of non-slip element balloon and drug-coating balloon for in-stent restenosis lesions (ELEGANT study)	J Cardiol. 2019 Nov; 74(5): 436-442.	Original Article
22	Horiguchi A, Fukaya H, Ako J, et al.	循環器内科	Real World Antithrombotic Therapy in Atrial Fibrillation Patients with a History of Percutaneous Coronary Intervention	Int Heart J. 2019 Nov; 60(6): 1321-1327.	Original Article
23	Okumura Y, Nagashima K, Ako J, et al.	循環器内科	AF Ablation Frontier Registry. Current Status and Clinical Outcomes of Oral Anticoagulant Discontinuation After Ablation for Atrial Fibrillation in Japan - Findings From the AF Frontier Ablation Registry	Circ J. 2019 Nov; 83(12): 2418-2427.	Original Article
24	Tanaka A, Shimabukuro M, Ako J, et al.	循環器内科	Effect of Empagliflozin on endothelial function in patients with type 2 diabetes and cardiovascular disease: results from the multicenter, randomized, placebo-controlled, double-blind EMBLEM trial	Diabetes Care. 2019 Oct; 42(10): 159-161.	Original Article

25	Tsutsui H, Momomura SI, Ako J, et al.	循環器内科	Efficacy and Safety of Ivabradine in Japanese Patients With Chronic Heart Failure – J-SHIFT Study	Circ J. 2019 Sep; 83(10): 2049–2060.	Original Article
26	Ako J, Hibi K, Tsujita K, et al.	循環器内科	Effect of Alirocumab on Coronary Atheroma Volume in Japanese Patients With Acute Coronary Syndrome – The ODYSSEY I-IVUS Trial	Circ J. 2019 Sep; 83(10): 2025–2033.	Original Article
27	Yasuda S, Kaikita K, Ako J, et al.	循環器内科	Antithrombotic Therapy for Atrial Fibrillation with Stable Coronary Disease	N Engl J Med. 2019 Sep; 381(12): 1103–1113.	Original Article
28	Tanaka S, Kamiya K, Ako J, et al.	循環器内科	Short-Term Change in Gait Speed and Clinical Outcomes in Older Patients With Acute Heart Failure	Circ J. 2019 Aug; 83(9): 1860–1867	Original Article
29	Aoyama A, Yamaoka-Tojo M, Ako J, et al.	循環器内科	Acute Effects of Whole-Body Vibration Training on Endothelial Function and Cardiovascular Response in Elderly Patients with Cardiovascular Disease	Int. Heart J. 2019 Jul; 60(4): 854–861.	Original Article
30	Kinugawa K, Sato N, Inomata T, et al.	循環器内科	Real-World Effectiveness and Tolerability of Tolvaptan in Patients With Heart Failure – Final Results of the Samsca Post-Marketing Surveillance in Heart Failure (SMILE) Study	Circ J. 2019 Jun; 83(7): 1520–1527.	Original Article
31	Nakamura M, Ako J, Arai H, et al.	循環器内科	Investigation into Lipid Management in Acute Coronary Syndrome Patients from the EXPLORE-J Study	J Atheroscler Thromb. 2019 Jun; 26(6): 559–572.	Original Article
32	Nemoto T, Minami Y, Ako J, et al.	循環器内科	Impaired flow-mediated dilation and severity and vulnerability of culprit plaque in patients with coronary artery disease	Int Heart J. 2019 May; 60(3): 539–545.	Original Article
33	Okuno T, Aoki J, Ako J, et al.	循環器内科	Admission Heart Rate Is a Determinant of Effectiveness of Beta-Blockers in Acute Myocardial Infarction Patients	Circ J. 2019 Apr; 83(5): 1054–1063.	Original Article
34	Kimura K, Kimura T, Ako J, et al.	循環器内科	JCS 2018 Guideline on Diagnosis and Treatment of Acute Coronary Syndrome	Circ J. 2019 Apr; 83(5): 1085–1196.	Original Article
35	Fujiyoshi K, Minami Y, Ako J, et al.	循環器内科	Incidence, factors, and clinical significance of cholesterol crystals in coronary plaque: An optical coherence tomography study	Atherosclerosis. 2019 Apr; 283: 79–84	Original Article
36	Nishizawa N, Harada H, Kumamoto Y, et al.	一般・小児・肝胆膵外科	Diagnostic potential of hypermethylation of the cysteine dioxygenase 1 gene (CDO1) promoter DNA in pancreatic cancer.	Cancer Sci. 2019 Sep; 110(9): 2846–2855	Original Article
37	Fujiyama Y, Kumamoto Y, Nishizawa N, et al.	一般・小児・肝胆膵外科	Promoter DNA Hypermethylation of the Cysteine Dioxygenase 1 (CDO1) Gene in Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm (IPMN).	Ann Surg Oncol. 2020 Oct; 27(10): 4007–4016.	Original Article
38	Hosoda K, Katada C, Ishido K, et al.	一般・小児・肝胆膵外科	Neoadjuvant chemotherapy plus surgery for high-risk advanced gastric cancer: long-term results of KDOG1001 trial.	Langenbecks Arch Surg. 2020 Sep; 405(6): 777–785.	Original Article

39	Nakamoto S, Ito Y, Nishizawa N, et al.	一般・小児・肝胆膵外科	Lymphangiogenesis and accumulation of reparative macrophages contribute to liver repair after hepatic ischemia-reperfusion injury.	Angiogenesis. 2020 Aug;23(3):395-410.	Original Article
40	Nakamoto S, Ito Y, Nishizawa N, et al.	一般・小児・肝胆膵外科	EP3 signaling in dendritic cells promotes liver repair by inducing IL-13-mediated macrophage differentiation in mice.	FASEB J. 2020 Apr;34(4):5610-5627.	Original Article
41	Ooizumi Y, Kojima K, Igarashi K, et al.	一般・小児・肝胆膵外科	Comprehensive Exploration to Identify Predictive DNA Markers of Δ Np63/SOX2 in Drug Resistance in Human Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Ann Surg Oncol. 2019 Dec;26(13):4814-4825.	Original Article
42	Harada H, Hosoda K, Moriya H, et al.	一般・小児・肝胆膵外科	Cancer-specific promoter DNA methylation of Cysteine dioxygenase type 1 (CDO1) gene as an important prognostic biomarker of gastric cancer.	PLoS One. 2019 Apr 1;14(4):e0214872.(オンライン)	Original Article
43	Okuwaki K, Masutani H, Imaizumi H, Yoshida T, Kida M, Iwai T, Yamauchi H, Tadehara M, Adachi K, Watanabe M, Kurosu T, Koizumi W.	消化器内科	Analysis of BRCAness with multiplex ligation-dependent probe amplification using formalin-fixed and paraffin-embedded pancreatic ductal adenocarcinoma tissue obtained via endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration biopsy.	Pancreatology. 2019 Apr;19(3):419-423.	Original Article
44	Katada C, Horimatsu T, Muto M, Tanaka K, Matsuda K, Fujishiro M, Saito Y, Ohtsuka K, Oda I, Kato M, Kida M, Kobayashi K, Hoteya S, Kodashima S, Matsuda T, Yamamoto H, Ryozaawa S, Iwakiri R, Kutsumi H, Miyata H, Kato M, Haruma K, Fujimoto K, Uemura N, Kaminishi M, Tajiri H.	消化器内科	Current status of esophageal endoscopy including the evaluation of smoking and alcohol consumption in Japan: an analysis based on the Japan endoscopy database.	Esophagus. 2019 Apr;16(2):174-179.	Original Article
45	Hidaka H, Kurosaki M, Tanaka H, Kudo M, Abiru S, Igura T, Ishikawa T, Seike M, Katsube T, Ochiai T, Kimura K, Fukuhara T, Kano T, Nagata T, Tanaka K, Kurokawa M, Yamamoto K, Osaki Y, Izumi N, Imawari M.	消化器内科	Lusutrombopag Reduces Need for Platelet Transfusion in Patients With Thrombocytopenia Undergoing Invasive Procedures.	Clin Gastroenterol Hepatol. 2019 May;17(6):1192-1200.	Original Article
46	Hidaka H, Izumi N, Aramaki T, Ikeda M, Inaba Y, Imanaka K, Okusaka T, Kanazawa S, Kaneko S, Kora S, Saito H, Furuse J, Matsui O, Yamashita T, Yokosuka O, Morita S, Arioka H, Kudo M, Arai Y.	消化器内科	Subgroup analysis of efficacy and safety of orantinib in combination with TACE in Japanese HCC patients in a randomized phase III trial (ORIENTAL).	Med Oncol. 2019 May 3;36(6):52.	Original Article

47	Furue Y, Katada C, Tanabe S, Ishido K, Kondo Y, Kubota Y, Kawanishi N, Yamane S, Watanabe A, Moriya H, Yamashita K, Wada T, Yano T, Azuma M, Koizumi W.	消化器内科	Effectiveness and safety of endoscopic aspiration mucosectomy and endoscopic submucosal dissection in patients with superficial esophageal squamous-cell carcinoma.	Surg Endosc. 2019 May;33(5):1433-1440.	Original Article
48	Katada C, Tanabe S, Wada T, Ishido K, Yano T, Furue Y, Kondo Y, Kawanishi N, Yamane S, Watanabe A, Azuma M, Koizumi W.	消化器内科	Retrospective Assessment of the Diagnostic Accuracy of the Depth of Invasion by Narrow Band Imaging Magnifying Endoscopy in Patients with Superficial Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	J Gastrointest Cancer. 2019 Jun;50(2):292-297.	Original Article
49	Adachi K, Yamauchi H, Kida M, Okuwaki K, Iwai T, Tadehara M, Uehara K, Nakatani S, Imaizumi H, Koizumi W.	消化器内科	Stent-induced symptomatic pancreatic duct stricture after endoscopic prophylactic pancreatic duct stent placement for the normal pancreas.	Pancreatology. 2019 Jul; 19(5):665-671.	Original Article
50	Yamauchi H, Iwai T, Kida M, Okuwaki K, Kurosu T, Watanabe M, Adachi K, Tadehara M, Imaizumi H, Koizumi W.	消化器内科	Complications of Long-Term Indwelling Transmural Double Pigtail Stent Placement for Symptomatic Peripancreatic Fluid Collections.	Dig Dis Sci. 2019/7;64(7):1976-1984.	Original Article
51	Kobayashi K, Tanaka S, Murakami Y, Ishikawa H, Sada M, Oka S, Saito Y, Iishi H, Kudo S, Ikematsu H, Igarashi M, Saitoh Y, Inoue Y, Hisabe T, Tsuruta O, Sano Y, Yamano H, Shimizu S, Yahagi N, Matsuda K, Nakamura H, Fujii T, Sugihara K, the Colorectal Endoscopic Resection Standardization Implementation Working Group of the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum:	消化器内科	Predictors of invasive cancer of large laterally spreading colorectal tumors: A multicenter study in Japan.	JGH Open 4(1):83-89 July 2019.	Original Article
52	Watanabe M, Okuwaki K, Kida M, Imaizumi H, Yamauchi H, Kaneko T, Iwai T, Hasegawa R, Miyata E, Masutani H, Tadehara M, Adachi K, Koizumi W.	消化器内科	Transpapillary Biliary Cannulation is Difficult in Cases with Large Oral Protrusion of the Duodenal Papilla.	Dig Dis Sci. 2019/8;64(8):2291-2299.	Original Article
53	Tadehara M, Okuwaki K, Imaizumi H, Kida M, Iwai T, Yamauchi H, Kaneko T, Hasegawa R, Miyata E, Kawaguchi Y, Masutani H, Koizumi W.	消化器内科	Usefulness of serum lipase for early diagnosis of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis.	World J Gastrointest Endosc. 2019 Sep 16;11(9):477-485.	Original Article
54	Saito T, Kobayashi K, Sada M, Matsumoto Y, Mukae M, Kawagishi K, Yokoyama K, Koizumi W, Saegusa M3, Murakami Y4.	消化器内科	Comparison of the histopathological characteristics of large colorectal laterally spreading tumors according to growth pattern.	J Anus Rectum Colon. 2019/10; 3(4):152-159.	Original Article

55	Adachi K, Okuwaki K, Nishiyama R, Kida M, Imaizumi H, Iwai T, Yamauchi H, Kaneko T, Hasegawa R, Miyata E, Kumamoto Y, Koizumi W.	消化器内科	A case of extrahepatic bile duct cancer with distant metastases showing pathological complete response to treatment combining gemcitabine and cisplatin.	Clin J Gastroenterol. 2019/10;12(5):466-472.	Case report
56	Otaka F, Ito Y, Inoue T, Ohkubo H, Nishizawa N, Kojo K, Betto T, Yamane S, Narumiya S, Koizumi W, Majima M.	消化器内科	Thromboxane A(2) receptor signaling in endothelial cells attenuates monocrotaline-induced liver injury.	Toxicol Appl Pharmacol. 2019/10; 381:114733.	Original Article
57	Masutani H, Okuwaki K, Kida M, Yoshida T, Imaizumi H, Yamauchi H, Iwai T, Kaneko T, Hasegawa R, Miyata E, Koizumi W.	消化器内科	On-site stereomicroscope quality evaluations to estimate white core cutoff lengths using EUS-FNA biopsy sampling with 22-gauge needles.	Gastrointest Endosc. 2019 Dec;90(6):947-956.	Original Article
58	Yamauchi H, Kida M, Miyata E, Okuwaki K, Iwai T, Minato N, Tadehara M, Watanabe M, Imaizumi H, Koizumi W.	消化器内科	Endoscopic Balloon Dilation for Benign Bilioenteric Stricture: Outcomes and Factors Affecting Recurrence.	Dig Dis Sci. 2019 Dec;64(12):3557-3567.	Original Article
59	Hasegawa R, Okuwaki K, Kida M, Yamauchi H, Kawaguchi Y, Matsumoto T, Kaneko T, Miyata E, Uehara K, Iwai T, Watanabe M, Kurosu T, Imaizumi H, Ohno T, Koizumi W.	消化器内科	A clinical trial to assess the feasibility and efficacy of nab-paclitaxel plus gemcitabine for elderly patients with unresectable advanced pancreatic cancer.	Int J Clin Oncol. 2019 Dec;24(12):1574-1581.	Original Article
60	Nishikawa K, Koizumi W, Tsuburaya A, Yamanaka T, Morita S, Fujitani K, Akamaru Y, Shimada K, Hosaka H, Nakayama N, Tsujinaka T, Sakamoto J.	消化器内科	Meta-analysis of two randomized phase III trials (TCOG GI-0801 and ECRIN TRICS) of biweekly irinotecan plus cisplatin versus irinotecan alone as second-line treatment for advanced gastric cancer.	Gastric Cancer. 2020 Jan;23(1):160-167.	Original Article
61	Uojima H, Hidaka H, Tanaka Y, Wada N, Kubota K, Nakazawa T, Shibuya A, Sung JH, Kako M, Koizumi W.	消化器内科	Furosemide Dose Changes Associated with Furosemide/Tolvaptan Combination Therapy in Patients with Cirrhosis.	Dig Dis. 2020;38(1):38-45.	Original Article
62	Katada C, Okamoto T, Ichinoe M, Sakamoto Y, Kano K, Hosono H, Miyamoto S, Tanabe S, Koizumi W, Yamashita T.	消化器内科	Prediction of lymph-node metastasis and lymphatic invasion of superficial pharyngeal cancer on narrow band imaging with magnifying endoscopy.	Auris Nasus Larynx. 2020/02;47(1):128-134.	Original Article
63	Akane Sekiguchi, Hideyasu Tsumura, Shogo Kawakami, et al.	放射線治療科	Relationship between the dose to the bulbomembranous urethra and stricture after high dose-rate brachytherapy for prostate cancer: Matched-pair analysis.	International Journal of Urology. 2019 September; Volume 26, Issue 9: 938-939	Original Article
64	Takuro Kainuma, Shogo Kawakami, Hideyasu Tsumura, et al.	放射線治療科	A phase I dose-escalation trial of stereotactic body radiotherapy using 4 fractions for patients with localized prostate cancer	Radiat Oncology. 2019 Sep; 14(1): 158	Original Article
65	Toyokazu Hayakawa, Shogo Kawakami, Itaru Soda, et al.	放射線治療科	Dosimetric factors associated with long-term patient-reported outcomes after definitive radiotherapy of patients with head and neck cancer	Radiation Oncology. 2019 Dec;14(1): 221	Original Article

66	Shuji Ishida, Atsushi Uchiyama, Ken Imai, et.al	小児科	BNP Level in Pregnant Women with Congenital Heart Disease Predicts SGA Offspring.	Pediatr Int.2019.12	Original Article
67	Toki T, Iwasaki T, Ishii M,et al.	小児科	Topiramate Blood Levels During Polytherapy for Epilepsy in Children.	Am J Ther.2019.1	Original Article
68	Kemmochi M, Senzaki H, Miyaji K, et al.	小児科	M. Evaluation of the optimal timing of VATS-PDA in preterm infants before 28 weeks of gestation.	Pediatric Int. 2019	Original Article
69	Okuda Y, Soohoo M, Tang Y,et al.	小児科	Estimated GFR at Dialysis Initiation and Mortality in Children and Adolescents.	Am J Kidney Dis.2019	Original Article
70	Honda T, He Q, Wang F,et al.	小児科	Acute and Chronic Remote Ischemic Conditioning Attenuate Septic Cardiomyopathy, Improve Cardiac Output, Protect Systemic Organs, and Improve Mortality in a Lipopolysaccharide-Induced Sepsis Model.	Basic Res Cardiol.2019	Original Article
71	Ito T, Kumagai T, Yamaji Y,et al.	小児科	Recombinant Measles AIK-C Vaccine Strain Expressing Influenza HA Protein.	Vaccines,2020.3	Original Article
72	Okuda Y, Soohoo M, Ishikura K,et al.	小児科	Primary causes of kidney disease and mortality in dialysis-dependent children.	Pediatr Nephrol, 2020	Original Article
73	Yamaoka K	膠原病・感染内科	Tofacitinib for the treatment of rheumatoid arthritis: an update.	Expert Rev Clin Immunol. 15(6): 577-588, 2019.	Original Article
74	Tanaka S, Matsueda Y, Kondo K, Yamaoka K	膠原病・感染内科	Latent left ventricular dysfunction in patients with pulmonary arterial hypertension associated with systemic sclerosis	Kitasato Med. J. 50: 1-6, 2020.	Original Article
75	Arinuma Y, Kikuchi H, Hirohata S	膠原病・感染内科	Anti-ribosomal P protein antibodies influence mortality of patients with diffuse psychiatric/neuropsychological syndromes in systemic lupus erythematosus involving a severe form of the disease.	Mod Rheumatol. 29(4): 612-618, 2019.	Original Article
76	Asakawa Ken, Ito Akari, Kobayashi Hinako, 他	北里大学医療衛生学部視覚機能療法学	Adaptation time, electroretinography and pupillography in healthy subjects.	Documenta Ophthalmologica 139 (1): 33-44, 2019	Original Article
77	Totsuka Kazuko, Asakawa Ken, Ishikawa Hitoshi, 他	眼科	Evaluation of pupil fields using a newly developed perimeter in glaucoma patients.	Current Eye Research 44(5): 527-532, 2019	Original Article
78	Asakawa Ken, Shoji Nobuyuki	北里大学医療衛生学部視覚機能療法学	Challenges to detect glaucomatous visual field loss with pupil perimetry.	Clinical Ophthalmology 13: 1621-1625,2019	Others

79	Hiroyasu Goukon, Kazunori Hirasawa, Masayuki Kasahara,他	眼科・ 大学院医療系研究 科	Comparison of Humphrey Field Analyzer and imo visual field test results in patients with glaucoma and pseudo-fixation loss	PLOS ONE 14(11): e0224711,2019	Original Article
80	Sonoda D,Satoh Y, Okumura S et al.	呼吸器外科	Ultra-late recurrence of non-small cell lung cancer over 10 years after curative resection.	Cancer Management and Research 2019年7月	Original Article
81	Mikubo M, Maruyama R, Satoh Y et al.	呼吸器外科	Ciliated muconodular papillary tumors of the lung: cytologic features and diagnostic pitfalls in intraoperative examinations.	Diagn Cytopathol. 2019年7月	Case report
82	Satoh Y	呼吸器外科	A case report of a thymic neuroblastoma associated with syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone: ten-year follow-up results after surgical treatment.	Int J Surg Case Rep. 2019年	Case report
83	Kimura A, Miyamoto S, Yamashita T	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Clinical predictors of descending necrotizing mediastinitis after deep neck infections	Laryngoscope	Original Article
84	Hosono H, Katada C, Yamashita T他	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Usefulness of narrow band imaging with magnifying endoscopy for the differential diagnosis of cancerous and noncancerous laryngeal lesions.	Head Neck. 2019 Aug;41(8):2555- 2560	Original Article
85	Matsuki T,Miyamoto S, Yamashita T他	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	Classification of tumors by imaging diagnosis and preoperative fine-needle aspiration cytology in 120 patients with tumors in the parapharyngeal space.	Head Neck. 2019 May;41(5):1277- 1281	Original Article
86	Hiki N, Nunobe S.	上部消化管外科	Laparoscopic endoscopic cooperative surgery (LECS) for the gastrointestinal tract	Updated indications. Ann Gastroenterol Surg. 2019 Feb19;3(3):239- 246.	Original Article
87	Harada H, Hosoda K, Moriya H, Mieno H, Ema A, Ushiku H, Washio M, Nishizawa N, Ishii S, Yokota K, Tanaka Y, Kaida T, Soeno T, Kosaka Y, Watanabe M, Yamashita K.	上部消化管外科	Cancer-specific promoter DNA methylation of Cysteine dioxygenase type 1 (CDO1) gene as an important prognostic biomarker of gastric cancer.	PLoS One. 2019 Apr 1;14(4):e0214872.	Original Article
88	Soeno T, Katoh H, Ishii S, Ushiku H, Hosoda K, Hiki N, Watanabe M, Yamashita K.	上部消化管外科	CD33+ Immature Myeloid Cells Critically Predict Recurrence in Advanced Gastric Cancer.	J Surg Res. 2020 Jan;245:552-563.	Original Article
89	Hosoda K, Mieno H, Ema A, Ushiku H, Washio M, Song I, Watanabe M, Yamashita K.	上部消化管外科	Safety and Feasibility of Robotic Distal Gastrectomy for Stage IA Gastric Cancer: A Phase II Trial.	J Surg Res. 2019 Jun;238:224-231.	Original Article
90	Hosoda K, Mieno H, Ema A, Ushiku H, Washio M, Song I, Watanabe M, Yamashita K, Hiki N.	上部消化管外科	Delta-shaped anastomosis vs circular stapler anastomosis after laparoscopic distal gastrectomy with Billroth I reconstruction: A randomized controlled trial.	Asian J Endosc Surg. 2019 Dec 9.	Original Article

91	Soeno T, Harada H, Hosoda K, Mieno H, Ema A, Ushiku H, Washio M, Kosaka Y, Watanabe M, Yamashita K.	上部消化管外科	Lymph Node Progression and Optimized Node Dissection of Middle Thoracic Esophageal Squamous Cell Carcinoma in the Latest Therapeutic Surgical Strategy.	Ann Surg Oncol. 2019 Apr;26(4):996-1004.	Original Article
92	Hosoda K, Azuma M, Katada C, Moriya H, Mieno H, Ishido K, Ema A, Ushiku H, Wada T, Washio M, Watanabe A, Higuchi K, Tanabe S, Koizumi W, Watanabe M, Yamashita K.	上部消化管外科	A phase II study of neoadjuvant chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and S-1, followed by gastrectomy with D2 lymph node dissection for high-risk advanced gastric cancer: results of the KDOG1001 trial.	Gastric Cancer. 2019 May;22(3):598-606.	Original Article
93	Hosoda K, Azuma M, Katada C, Ishido K, Niihara M, Ushiku H, Sakuraya M, Washio M, Wada T, Watanabe A, Harada H, Tanabe S, Koizumi W, Yamashita K, Hiki N.	上部消化管外科	A phase I study of docetaxel/oxaliplatin/S-1 (DOS) combination neoadjuvant chemotherapy for patients with locally advanced adenocarcinoma of the esophagogastric junction.	Int J Clin Oncol. 2020 Mar 2.	Original Article
94	Harada H, Hosoda K, Moriya H, Mieno H, Ema A, Washio M, Kikuchi M, Kosaka Y, Watanabe M, Yamashita K.	上部消化管外科	Carcinosarcoma of the Esophagus: A Report of 6 Cases Associated With Zinc Finger E-box-binding Homeobox 1 Expression.	Oncol Lett. 2019 Jan;17(1):578-586.	Original Article
95	Takano S	整形外科	Transforming growth factor-beta stimulates nerve growth factor production in osteoarthritic synovium	BMC Musculoskelet Disord	Original Article
96	Kenmoku T	整形外科	Comparison of glenohumeral joint rotation between asymptomatic subjects and patients with subacromial impingement syndrome using cine-magnetic resonance imaging: a cross-sectional study	BMC Musculoskelet Disord	Original Article
97	Miyagi M	整形外科	Hip-spine syndrome: cross-sectional-study of spinal alignment in patients with coxalgia	Hip Int	Original Article
98	Murata K	整形外科	Osteoarthritis patients with high haemoglobin A1c have increased Toll-like receptor 4 and matrix metalloprotease-13 expression in the synovium	Diabetes Metab Syndr Obes	Original Article
99	Takano S	整形外科	Vascular Endothelial Growth Factor Is Regulated by the Canonical and Noncanonical Transforming Growth Factor- β Pathway in Synovial Fibroblasts Derived from Osteoarthritis Patients	Biomed Res Int	Original Article
100	Miyagi M	整形外科	The impact of switching once-weekly teriparatide to denosumab in osteoporosis patients	J Orthop Sci	Original Article
101	Tazawa R	整形外科	Effect of Single Injection of Recombinant Human Bone Morphogenetic Protein-2-Loaded Artificial Collagen-Like Peptide in a Mouse Segmental Bone Transport Model	Biomed Res Int	Original Article

102	Momozono A	内分泌代謝内科	Oxidised Met147 of human serum albumin is a biomarker of oxidative stress, reflecting glycaemic fluctuations and hypoglycaemia in diabetes	Scientific Reports 2020;10:268	Original Article
103	Itikawa R	内分泌代謝内科	Basal glucagon hypersecretion and response to oral glucose load in prediabetes and mild type 2 diabetes	Endocrine Journal 2019;66:663-675	Original Article
104	Hoshiyama A	内分泌代謝内科	Identification of plasma binding proteins for glucose-dependent insulinotropic polypeptide.	Endocrine Journal 2019;66:621-628	Original Article
105	Yosino S	内分泌代謝内科	Molecular form and concentration of serum α 2-macroglobulin in diabetes.	Scientific Reports 2019;9:12927	Original Article
106	Inoue M	内分泌代謝内科	Effects of canagliflozin on body composition and hepatic fat content in type 2 diabetes patients with non-alcoholic fatty liver disease.	J Diabetes Investigation 2019;10:1004-1011	Original Article
107	Toki T	内分泌代謝内科	A novel strategy to identify autoantigens by proteomic analysis of plasma IgG-bound proteins.	J Electrophoresis 2019;63:99 e1-10	Original Article
108	Nishizawa N, Kumamoto Y, Katoh H 他	泌尿器科	Dissected peripancreatic tissue margin is a critical prognostic factor and is associated with a K-ras gene mutation in pancreatic ductal adenocarcinoma	Oncol Lett 17巻2号, 2141-2150頁 2019年4月	Original Article
109	Kazunari Yoshida, Daisuke Ishii	泌尿器科	Peritoneal dialysis catheter insertion surgery and management	The Journal of Vascular Access 20巻1_suppl 97-99頁 2019年5月	Original Article
110	Tetsuo Fujita, Takahiro Hirayama, Morihiro Nishi 他	泌尿器科	Outcome of third-line sunitinib after sequential therapy with cytokines and sorafenib in metastatic renal cell carcinoma	Molecular and Clinical Oncology 11巻5号 505-510頁 2019年11月	Original Article
111	Yasukiyo Murakami ; Kazumasa Matsumoto, Masaomi Ikeda 他	泌尿器科	Impact of histologic variants on the oncological outcomes of patients with upper urinary tract cancers treated with radical surgery: a multi-institutional retrospective study	International Journal of Clinical Oncology 24号 1412-1418頁 2019年11月	Original Article
112	Stefania Zamboni, Beat Foerster, Mohammad Abufara 他	泌尿器科	Incidence and survival outcomes in patients with upper urinary tract urothelial carcinoma diagnosed with variant histology and treated with nephroureterectomy	BJU INTERNATIONAL 124巻5号 738-745頁 2019年11月	Original Article
113	Hideto Iwamoto, Shuichi Morizane, Takuya Koie 他	泌尿器科	Peri-operative efficacy and long-term survival benefit of robotic-assisted radical cystectomy in septuagenarian patients compared with younger patients: a nationwide multi-institutional study in Japan.	International Journal of Clinical Oncology 24巻12号 1588-1595頁 2019年12月	Original Article

114	Michihiro Tsubaki, Shusuke Tougo, Masahiro Kobayashi 他	泌尿器科	Narrative review on attitudes toward organ donation of undergraduate nurse students	JAPAN JOURNAL OF NURSING SCIENCE 17巻1号 2020年1月	Original Article
115	Emmanuel S. Antonarakis, Josep M. Piulats, Marine Gross-Goupil 他	泌尿器科	Pembrolizumab for Treatment-Refractory Metastatic Castration-Resistant Prostate Cancer: Multicohort, Open-Label Phase II KEYNOTE-199 Study.	JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY 38巻5号 395-405頁 2020年2月	Original Article

計115件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Hongo Y, Iizuka T, Kaneko A, et al	脳神経内科	An autopsy case of MM2-thalamic subtype of sporadic Creutzfeldt-Jakob disease with Lewy bodies presenting as a sleep disorder mimicking anti-IgLN5 disease.	J Neurol Sci. 2019 Sep 15;404:36-39	Case report
2	Hongo Y, Kaneko J, Suga H, et al.	脳神経内科	Correction to: A cluster of disseminated small cortical lesions in MELAS: its distinctive clinical and neuroimaging features. J Neurol. 2019	Jun;266(6):1473.	Case report
3	Shimizu T, Kondo Y, Kanazawa N, et al.	脳神経内科	Anti-HMGCR myopathy following acute Epstein-Barr virus infection	Muscle Nerve. 2020 Jan;61(1):E5-E8	Case report
4	A. Uchino, M. Nagai, N. Kanazawa, et al	脳神経内科	An autopsy case of GM1 gangliosidosis type II in a patient who survived a long duration with artificial respiratory support.	Neuropathology. 2020 Mar 27. In press	Case report
5	Uojima H, Onoue M, Hidaka H, Wada N, Tanaka Y, Inoue T, Kubota K, Nakazawa T, Shibuya A, Koizumi W.	消化器内科	A suspected case of Clostridium perfringens sepsis with intravascular hemolysis after transhepatic arterial chemoembolization: a case report.	J Med Case Rep. 2019 Apr 27;13(1):125.	Case report

6	Kawaguchi Y, Yamauchi H, Kida M, Okuwaki K, Iwai T, Uehara K, Hasegawa R, Imaizumi H, Kobayashi K, Koizumi W.	消化器内科	Failure Factors to Reach the Blind End Using a Short-Type Single-Balloon Enteroscope for ERCP with Roux-en-Y Reconstruction: A Multicenter Retrospective Study.	Gastroenterol Res Pract. 2019/5, 2019:3536487.	Original Article
7	Okuwaki K, Yamauchi H, Kida M, Imaizumi H, Matsumoto T, Tadehara M, Iwai T, Kaneko T, Hasegawa R, Miyata E, Koizumi W.	消化器内科	The large-balloon occlusion technique: A new method for conversion to EUS-guided hepaticogastrostomy in patient with prior self-expanding metal stent placement. Endosc Ultrasound.	2019 May-Jun;8(3):209-210.	Others
8	Katada C, Pai RK, Fukami N.	消化器内科	Comparison of Narrow Band Imaging, Volumetric Laser Endomicroscopy and Pathological Findings in Barrett's Esophagus.	Video GIE, 4: 319-322, 2019.	Case report
9	Kawanishi N, Azuma M, Takeuchi A, Yamane S, Ishido K, Katada C, Tanabe S, Yoshida T, Koizumi W.	消化器内科	Gene expression profiles of genes related to canceration, invasion or conversion for metastasis in patients with poorly differentiated gastric adenocarcinoma treated by gastric endoscopic submucosal dissection.	Kitasato Medical Journal 2019/09; 49(2):125-133.	Original Article

計 9件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準拠すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
手順書の主な内容 ①研究者が、研究申請書及び実験計画書を倫理委員会事務局へ提出する。 ②臨床研究指針に基づき委員会にて審議ならび判定の後、臨床研究機関長が実施の可否を決定する。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容：産官学連携活動に関する北里大学利益相反マネジメント・ポリシーに基づき、利益相反に関する事項を審議する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年28回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」及び「2018年4月施行の「臨床研究法」についての説明および具体的事例を用いた研究実施手法の解説	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

北里大学病院は、1033床の病床を有する特定機能病院であり、地域における災害拠点病院、がん診療連携拠点病院として超急性期医療に対応するべく、各医療センターを中心にチーム医療を中心とした最先端の医療を提供している。
初期臨床研修後の病棟医（卒後3～6年）については、各領域毎に日本専門医機構の指針に基づいた「専門研修プログラム」を設け、上位者よりきめ細かい指導を受ける体制と、医師としての資質向上のため診療科の枠を超えた全病院的指導体制を築いている。
当院での研修を通じて、幅広い知識と技量を有した専門医を育成し、専門領域に関する継続的な探究心を身につけることを目標とする。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	184.0	人
-------------	-------	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
七里 眞義	内分泌代謝内科	教授	39 年	
竹内 康雄	腎臓内科	教授	30 年	
鈴木 隆浩	血液内科	教授	26 年	
山岡 邦宏	感染症内科	教授	27 年	
小泉 和三郎	消化器内科	教授	39 年	
阿古 潤哉	循環器内科	教授	28 年	
猶木 克彦	呼吸器内科	教授	29 年	
西山 和利	神経内科	教授	32 年	
宮岡 等	精神科	教授	38 年	
天羽 康之	皮膚科	教授	23 年	
井上 優介	放射線診断科	教授	30 年	
石山 博條	放射線治療科	教授	22 年	
比企 直樹	上部消化管外科	教授	29 年	
内藤 剛	下部消化管外科	教授	29 年	
隈元 雄介	一般・小児・肝胆膵外科	教授	29 年	
田中 潔	小児外科	教授	32 年	
三階 貴史	乳腺・甲状腺外科	教授	23 年	
佐藤 之俊	呼吸器外科	教授	34 年	
宮地 鑑	心臓血管外科	教授	32 年	
隈部 俊宏	脳神経外科	教授	33 年	
高相 晶士	整形外科	教授	30 年	
武田 啓	形成外科・美容外科	教授	34 年	
岩村 正嗣	泌尿器科	教授	36 年	
山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	24 年	
庄司 信行	眼科	教授	31 年	
石倉 健司	小児科	教授	27 年	
恩田 貴志	産科・婦人科	教授	33 年	
岡本 浩嗣	麻酔科	教授	32 年	

浅利 靖	救急科	教授	33	年
狩野 有作	臨床検査科	教授	29	年
三枝 信	病理診断科	教授	32	年
青山 直善	総合診療部	教授	32	年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）		
・研修の主な内容		
1) 北里腫瘍フォーラム	2) 北里循環器セミナー	3) 職員研究発表会
・研修の期間・実施回数		
1) 年2回	2) 年5回	3) 年1回
・研修の参加人数		
1) 1回につき70名前後	2) 1回につき100名前後	3) 60名前後
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）		
・研修の主な内容	2019年度若手管理者リーダーシップ研修会	
・研修の期間・実施回数	年1回	
・研修の参加人数	27名	
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況		
・研修の主な内容		
1) 緩和ケア研修会		
・研修の期間・実施回数		
2) 1回につき1日間・年2回開催		
・研修の参加人数		
3) 1回につき40～50名前後		

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 岩村 正嗣	
管理担当者氏名	事務部長 武石 年弘	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	人事課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療情報管理室
		看護記録	診療情報管理室
		検査所見記録	診療情報管理室
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	診療情報管理室
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理室
			診療録の管理については、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づき電子カルテを整備したうえで診療情報管理規程を定めて管理している。診療録の病院外への持ち出しは診療情報管理規程等について定めている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
		高度の医療の研修の実績	研修統括部
		閲覧実績	診療情報管理室
		紹介患者に対する医療提供の実績	トータルサポートセンター
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全推進室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全推進室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全推進室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全推進室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質・安全推進室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療の質・安全推進室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質・安全推進室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質・安全推進室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質・安全推進室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療の質・安全推進室
		職員研修の実施状況	医療の質・安全推進室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療の質・安全推進室
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長 武石 年弘		
閲覧担当者氏名	総務課長 小林 健二		
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
閲覧申請を受けたら、事務部長の承認を得て、総務課内にて閲覧する。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢、用語の定義） 2) 安全管理のための委員会及び組織体制に関する基本的事項 3) 安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策 5) 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6) 職員と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7) 患者及び家族からの相談への対応に関する基本方針 8) その他医療安全の推進のために必要な方策 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故防止活動全般とインシデント及び医療事故発生時の対応に関すること 2) 医療事故防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 3) 医療事故防止のための情報収集と必要部門への伝達に関すること 4) 医療安全に係る各種ワーキング及びプロジェクト活動に関すること 5) 全死亡例及び医療事故の状況の確認、並びに対策が不十分な場合の研修、指導に関すること 6) 医療事故等の原因究明のための調査・分析に関すること及び分析結果を活用した改善方策の立案・実施・周知に関すること並びに改善方策の実施状況の調査、方策の見直しに関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療法第6条の規定による研修会（医療安全、感染対策）2019年4月 2) 医療法第6条の規定による研修会（医療安全、感染対策）2019年11月 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価の実施 2) リスクマネジメント委員会での改善具体策の検討・実施 3) 改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュース・会議体での周知、マニュアルの改廃・作成等） 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本方針 院内管理体制 院内感染対策のための教育・研修 感染症発生状況報告体制 院内感染発生時の対応 患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針</p> <p>制定、改定について： 平成19年4月1日制定。平成22年2月24日付、平成23年2月22日付、平成26年2月26日付、平成28年2月24日付、平成30年2月28日付、2020年2月26日付で一部改定</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容： 院内感染防止のための活動全般と感染症発生時の対応に関すること 院内感染防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 院内感染防止のための情報収集と現場部門への伝達に関すること 院内感染管理に係る各種ワーキング等の活動に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 91 回
<p>・ 研修の内容（すべて）： 新規採用者、復職者、中途採用者への研修 全職員を対象とした医療安全研修会（2019年度2回実施） 主に医師を対象としたICTセミナー（2019年度2回実施） 看護補佐、診療アシスタント、ボランティア、奉仕団を対象とした感染対策研修会、 リンクスタッフを対象とした感染対策研修会 院内常駐委託業者を対象とした研修会 各種防護具等の着脱訓練、N95マスクフィットテスト 手指衛生に関する研修会 新型コロナウイルス感染症緊急セミナー その他</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</p> <p>①検査結果速報体制の整備 ②感染症・食中毒発生報告体制の整備 ③サーベイランスによる発生状況の把握およびフィードバック ④針刺し・粘膜曝露事象発生時の対応体制の整備</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： ①「かんせん情報」の発行（2019年度6回発行） ②院内イントラネットに「かんせん情報」「抗菌薬感受性率一覧」「抗菌薬使用量」「感染症診療のための臨床分離情報」等を掲載し24時間の閲覧情報提供 ③広域抗菌薬、抗MRSA薬の使用届出制 ④AST抗菌薬ラウンド（2019年度回診数：延べ527例） ⑤ICT環境ラウンド（2019年度44回） ⑥年間を通じた、感染、病原体、抗菌薬に関するコンサルテーション ⑦耐性菌や流行感染症に対する予防・対策</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 10 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 薬剤管理について 薬物の乱用について 開催日：2019年4月3日 場所：IPE棟ホール 11:00～11:30 参加者：全新入職員 講師：薬剤部 厚田幸一郎 ・ 実例から学ぶインスリン攻略法 開催日：2019年6月7日 場所：臨床講義室 No.3 17:10～18:00 参加者：看護師、薬剤師、実習中学生 講師：薬剤部 奥脇 優加 ・ 知っておきたい医療用麻薬(オピオイド)の特徴と管理方法 開催日：2019年8月9日 場所：臨床講義室 No.3 17:10～18:00 参加者：看護師、薬剤師 講師：薬剤部 小山 郁美、平塚 公己 ・ NST勉強会 簡易懸濁について 開催日：2019年10月18日 場所：臨床講義室 No.1、2 17:00～18:00 参加者：病棟NSTおよび職員 講師：薬剤部 安井 彩夏 ・ 2019年度 第2回 医療安全研修会 開催日：2019年11月8日 場所：IPE棟ホール 16:00～17:00 参加者：全職員 講師：薬剤部 米山 大志 ・ 抗凝固薬・サプリメント手術前の適正使用について 開催日：2019年12月13日 場所：臨床講義室 No.1 17:10～18:00 参加者：看護師、薬剤師 講師：薬剤部 赤嶺 聡彦 ・ クイズで学ぶ医薬品安全使用 開催日：2020年1月24日 場所：臨床講義室 No.1 17:10～18:00 参加者：看護師、薬剤師 講師：薬剤部 米山 大志 ・ プレアボイド報告 I 開催日：2019年5-7月 場所：各病棟カンファレンスルーム 参加者：医師 講師：各病棟担当薬剤師 	

・ プレアボイド報告Ⅱ
開催日：2019年8-9月
場所：各病棟カンファレンスルーム
参加者：医師
講師：各病棟担当薬剤師

・ 抗てんかん薬の適正使用
開催日：2019年10-11月
場所：各病棟カンファレンスルーム
参加者：医師、看護師
講師：各病棟担当薬剤師

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (有・無)
- ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：

医薬品安全管理責任者は年に2回(6ヶ月に1回)手順書に基づく業務の実施状況を確認。
また、職員間の定期的な確認の報告に対し必要に応じて改善を指示し、改善の実施を確認する。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：

未承認薬：「腸管不全関連性肝機能障害に対する Omegaven[®] 投与」

新世紀医療開発センター・先端医療領域開発部門 新生児集中治療学からの申請

対象患者：1名 (2019/12/4 報告書提出)

承認条件：使用を認める。但し、付帯条件を以下のとおりとする。

- ・ 本製剤は医薬品医療機器等法の承認対象外のため、医薬品として扱われないという前提で患者の自己責任として対応する。
- ・ 購入は患者側の個人輸入として対応する。
- ・ 薬剤部において分注、調剤作業は行わないため、具体的な使用方法是当該診療科で検討する。
- ・ 当院の対応を患者側に充分理解してもらい同意を得る。

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

未承認等の医薬品の使用に関し、使用の状況の把握のための体系的な仕組みを構築し2016年9月1日より運用開始をしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 326 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 新規採用医療機器の導入時の研修 ② 特定機能病院における定期的研修 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工呼吸器 ・ 閉鎖式保育器 ・ 血液浄化装置 ・ 除細動器 ・ 人工心肺装置 など 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 定期点検 (外観点検、機能点検、作動点検、電気的安全性点検)：機器全般 ② 終了時点検 (作動点検、外観点検)：機器全般 ③ 安全ラウンド点検 (作動点検、使用法確認)：人工呼吸器、生体情報モニタなど ④ 故障時点検 (外観点検、機能点検、作動点検)：機器全般
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： <ul style="list-style-type: none"> 骨髄炎及び人工関節周囲感染に対するゲンタマイシン注の局所投与に、セイラムサンプルチューブを使用した事例 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① リスクマネジメント委員会での報告 (医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討) ② 院内広報誌 (リスクマネジメントニュースなど) での広報 (医療機器安全性情報等) ③ インシデントに基づいた研修会の開催

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副院長 (危機管理・医療安全担当) が医療安全管理責任者の職務を担い、医療安全管理部門 (医療の質・安全推進室)、医療安全管理委員会 (リスクマネジメント委員会)、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (8名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>1) 添付文書の更新への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤部内には、週1回発行されるホットラインに掲載し情報を徹底。その内容に則って調剤監査を行う。病棟担当者もそれをもとに処方監査を行う。 ・特に重要と考えられるものは薬事委員会 (毎月開催) で報告。 ・院内のオンライン医薬品情報は定期的 (1回/月) に更新されるが、周知に緊急を要する場合は更新を待たずに、マニュアルで上書き修正する。 <p>2) イエローレター、ブルーレター発出時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イエローレター、ブルーレターが発出された場合は、その時点でその医薬品を使用している医師をリストアップし、直接連絡を入れる。 ・処方時にポップアップで表示。 ・医師には全員イエローレター、ブルーレターをポストに投函。 ・各病棟 (看護係長、医師カンファレンスルーム) には病棟担当者が配布・説明。 ・外来は全診察室内に掲示。 ・イエローレターは、医療安全情報として全職員に回覧し、回覧の有無の確認も実施。 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬剤師は院内の全処方に対して監査を実施。添付文書から外れた使用目的、用法・用量等においては全例疑義照会を行う。疑義照会を行った際、適応外使用が変更されずに、そのまま処方したいとの返答を受けた場合は「新規医療・医薬品評価室」への対応を指示</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者の指名の有無 (有)・無) ・ 担当者の所属・職種： <ul style="list-style-type: none"> (所属：循環器内科，職種 医師) (所属：心臓血管外科，職種 医師) (所属：総合手術センター，職種 医師) (所属：小児科 ，職種 医師) (所属：消化器内科，職種 医師) (所属：薬剤部 ，職種 薬剤師) (所属：医療の質・安全推進室，職種 薬剤師) (所属：ME 部，職種 臨床工学技士) (所属：事務部，職種 事務職員)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ○ 遵守状況の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「北里大学病院・東病院における説明と同意に関するガイドライン」(平成 27 年 11 月 1 日制定、平成 30 年 6 月 1 日最終改正)に基づき、定型の説明・同意文書の作成時に、標準的説明内容、記載項目、表現等を確認する。 ・ 説明・同意文書の使用に関し、署名等の実施を確認する。 ・ 説明内容等の診療録記載について、頻度等を確認する。 ○ 指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明と同意のあり方ならびにその方法等についての指導 ・ 定型の説明同意文書の作成時に、標準的説明内容についての指導 ・ 説明内容等の診療録への記載方法についての指導 ・ 説明と同意に関する研修会を開催 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 記載内容の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての退院患者の診療録を対象とし、次の事柄を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> － 誤記載 (部位・日付、変換ミス等) － 有害事象の発生が疑われる記載 (インシデント報告の有無を医療の質・安全推進室 	

へ照会する)

ー CV穿刺、DVT・PE予防等の有害事象の再発防止策に関わる記載

- ・ 医師・看護師・コメディカル・診療情報管理士・事務等により、無作為抽出した診療録を対象とし、定期的に記録内容を確認する。

○指導等の主な内容

- ・ 電子カルテの適切な使用方法を始め、診療録の記載方法について指導する。
- ・ 診療録の誤記載の修正等について指導する。
- ・ 作成文書等の未作成および不備等について指導する。
- ・ CV穿刺、DVT・PE予防等の有害事象の再発防止策に関わる記載の不備等について、医療の質・安全推進室を介して周知等を行う。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・ 所属職員：専従（9）名、専任（ ）名、兼任（6）名
 - うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（4）名
 - うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名
 - うち看護師：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
 - うち事務職員：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
 - うち臨床工学技士：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- リスクマネジメント委員会の運営に関する業務
- 医療事故防止のための事例情報収集・分析・対策立案・フィードバックに関する業務
- 医療安全のための職員研修に関する業務
- 医療安全管理に関するマニュアル・ハンドブック等の整備に関する業務
- 患者相談窓口担当者との支援、連携に関する業務
- 医療事故発生時や事故後の対応支援及び指導に関する業務
- 医療訴訟、和解等に関する業務
- 医療安全管理の適正な実施における疑義による公益通報への対応業務
- 医療安全監査委員会に関する業務
- 全死亡例及び医療事故の報告に関する業務
- 医療安全に資する診療内容及び医療安全の認識のモニタリング業務
- 他の特定機能病院との相互立入に関する業務
- 他

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

医療安全管理部門に配置する職員のうち看護師2名を医療安全管理者に任用しており、いずれも専任の医療に係る安全管理を行う者の基準を満たしている。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

ラウンド（院内ラウンド）での職員へのヒアリング
インシデント報告（あいれば）の報告内容の確認
診療情報管理士による診療録の内容確認
各種テンプレート（中心静脈カテーテル、深部静脈血栓）の入力情報の確認

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（7件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術に関する情報収集
 - 高難度新規医療技術提供に関する院内実施体制の確認
 - 高難度新規医療技術実施申請への対応
 - 高難度新規医療技術評価委員会の運営
 - 高難度新規医療技術の実施状況の確認
 - 高難度新規医療技術に係わる規程の改正 他
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（20件）、及び許可件数（20件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - 2019年7月に未承認新規医薬品等評価委員会の規定を改定し、2019年8月より毎月開催している。
 - 2019年度は8回開催し、未承認薬2件、適応外使用(医薬品)14件、適応外使用(医療材料)2件、先進医療1件、その他1件を審議した。
 - 2020年度は9月までに5回開催し、そのうち1回はメール審議で行った。未承認薬1件、適応外使用(医薬品)16件、適応外使用(医療材料)2件の審議を行った。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 1,393 件 ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 140 件 ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 報告の実施状況の確認及び確認結果の管理者への報告。実施状況が不十分な場合の職員に対する研修及び指導。 毎月、RST・RRT（呼吸療法サポートチーム・ラピッドレスポンスチーム）の活動状況より、死亡症例の報告がなされ、対応についての確認を行っている。
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="radio"/> 有 (病院名：日本医科大学付属病院) ・ 無) ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="radio"/> 有 (病院名：日本医科大学付属病院) ・ 無) ・ 技術的助言の実施状況 <p>合併症・偶発症に関する報告の定義があり、医師も報告しやすいと感じました。また、インシデント・アクシデント報告以外にグッドレポートがあり、インシデント報告が負のイメージとならず、より身近な報告システムではないかと思います。手入力する部分がやや多いため、選択肢を使用するなどご検討ください。</p>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体制の確保状況 現場で初期対応後、患者相談窓口へ引継がれ、患者相談窓口と医療安全管理部門が協働して適切に対応している。

<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の実施状況 各種の医療安全研修会 (チーム STEPPS、転倒・転落の防止、一次救命処置、医療安全セミナー) 新規採用者研修 (研修医・コメディカルのオリエンテーション時)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全管理者養成研修会、特定機能病院管理者研修会を受講

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 高度な医療安全の確保に関する法的責務を負っており、医療安全管理について十分な知見並びに病院運営に関し次の資質・能力を有し、リーダーシップを発揮できる者とする。 (1) 高度な医療安全確保のために必要な資質・能力。 (2) 高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページへ掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 管理及び運営に関する事項 (2) 規程等の制定及び改廃に関する事項 (3) 診療、教育及び研究に関する事項 (4) その他重要事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> (1) 部科長会・管理部会にて報告 (2) 院内サイトにて会議資料を公開 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法 院内サイトにて公開 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有・(無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
岩村 正嗣	○	医師	病院長
武田 啓		医師	副院長 (診療担当)
佐藤 之俊		医師	副院長 (教育・研修統括担当)
高相 晶士		医師	副院長 (医療支援・渉外担当)
七里 眞義		医師	副院長 (人事・労務環境担当)
阿古 潤哉		医師	副院長 (危機管理・医療安全担当)
佐々木 治一郎		医師	副院長 (経営戦略・広報担当)
別府 千恵		看護師	副院長 (患者支援・チーム医療担当) ・ 看護部長
武石 年弘		事務職	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
病院ホームページへ掲載
- ・ 規程の主な内容
地位、職務権限、選任、任期、代理、改廃等について定めている。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副院長（診療担当）は各部門を指揮監督する。別に定めた副院長（特命担当）は、あらかじめ与えられた担当職務を遂行する。
 - ・ 病院長不在又は事故あるときは、副院長（診療担当）がその職務を代理する。なお、副院長（診療担当）に事故あるときは、あらかじめ定めた順序により、副院長（特命担当）がその職務を代理する。
 - ・ 病院長補佐は、病院長の特命事項を分掌し、担当職務に関し必要な提案等を行い、病院長の補佐としてその職務を遂行する。
 - ・ 経営戦略企画室は、病院長を補佐し、医療事業推進のための総合的戦略を立案する。また、その他病院長が必要と判断する業務を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 次世代リーダー育成を目標としたマネジメント研修（スクーリング型研修・全6回/3ヵ月）を開催し、社会人として必要不可欠な論理的思考を・問題解決力・仮説検証力、コミュニケーション力の習得を目指している。
 - ・ 若手管理者リーダーシップ研修会（医師・コメディカル・事務職対象）を開催し、当院の未来を支えるリーダーとして、病院全体における協働をリードする考え方と手法を身につけることを目的としている。
 - ・ 法人全体で将来構想（中期計画）検討委員会を設置し、医師・事務職等の将来を担う中堅を中心とした委員構成で中間計画の検討を行うにあたり、中間キャンプを開催し、講師を招いての講演及び研修会を実施している。
 - ・ 執行部は日本医療機能評価機構主催「特定機能病院管理者研修」、日本病院会主催「医療安全管理者要請講習会」を受講している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1) 医療安全業務が適切に実施されているか、医療安全に係る取り組み状況を確認する。</p> <p>2) 医療安全管理業務が適切に実施されていない場合又は、適切に実施されない恐れがある場合などは、必要に応じて是正措置を講じるよう助言する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：法人ホームページにて公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
平原 史樹	横浜市病院経営 本部長	○	大学病院等の医療機 関における医療安全 業務の経験	有・無	医療に係る安全管 理に関する識見を 有する者
海野 宏行	みなと綜合法律 事務所		弁護士としての経 験。	有・無	法律に関する識見 を有する者
山口 育子	認定 NPO 法人ささ えあい医療人権セ ンターCOML		医療現場により良い コミュニケーション を築く豊富な活動経 験	有・無	医療を受ける者
和田 仁孝	早稲田大学大学院 法務研究科		医療メディエーター としての豊富な経験	有・無	学識経験を有する 者
花井 恵子	神奈川県看護協会		大学病院における医 療安全業務の経験	有・無	医療に係る安全管 理に関する識見を 有する者

注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
法人にて、法令違反行為の早期発見と是正を図るため、公益通報及び相談の受付窓口「北里ホットライン」を法人外部に開設し、健全な経営に資することを目的としている。
その中で、法人経営上の違法・不当な行為があると認めるときは、その内容を調査結果報告書により、内容を証する資料とともに理事長に報告しなければならない。
- ・ 専門部署の設置の有無 (有 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 無)
- ・ 公表の方法
法人ホームページ教職員サイトへ掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 学校法人北里研究所の理事をもって組織し、法人の業務は理事会で決定する。 理事総数の3分の2以上の理事が出席し、理事総数の過半数をもって決する。 ・ 会議体の実施状況（年 15 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年 13 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 教職員専用サイトにて公開している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 18 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 職員にカードを配付